



Wyse Management Suite 1.3 検証ガイド

Wyse ThinOS™ 管理編

デル株式会社 クラウドクライアントコンピューティング事業部

March 2019

ドキュメントバージョン

Date	Description
2019年3月	初版

THIS WHITE PAPER IS FOR INFORMATIONAL PURPOSES ONLY, AND MAY CONTAIN TYPOGRAPHICAL ERRORS AND TECHNICAL INACCURACIES. THE CONTENT IS PROVIDED AS IS, WITHOUT EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES OF ANY KIND.

© 2019 Dell Inc. All rights reserved. Reproduction of this material in any manner whatsoever without the express written permission of Dell Inc. is strictly forbidden. For more information, contact Dell.

Dell, the DELL logo, and the DELL badge are trademarks of Dell Inc. Microsoft, Windows, and Windows Server are registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries. Other trademarks and trade names may be used in this document to refer to either the entities claiming the marks and names or their products. Dell disclaims any proprietary interest in the marks and names of others.

目次

ドキュメントバージョン.....	2
はじめに.....	4
1 Wyse Management Suite 1.3 概要.....	5
1.1 機能概要.....	5
1.2 管理概念.....	5
2 Wyse Management Suite 1.3 の導入.....	7
2.1 初期セットアップウィザード.....	10
2.2 WMS Pro の評価ライセンスキーの入手について.....	13
2.3 WMS のシステム設定.....	13
2.4 デバイスの登録環境の構築.....	24
2.5 自動チェックインのネットワーク環境の構成.....	26
2.6 チェックインのネットワーク環境の手動構成.....	30
3 デバイスポリシー設定.....	32
3.1 ThinOS ファームウェアの更新.....	33
3.2 ThinOS 詳細設定.....	36
4 ThinOS パッケージの配信.....	38
5 証明書の配布.....	43
6 トラブルシューティング.....	45
A 参考情報.....	47

はじめに

本ドキュメントでは、Dell Wyse Management Suite 1.3（以下 WMS 略）を検証いただく際に、一般的なセットアップ方法、運用タスクについて説明しています。お客様・パートナー様にて WMS を検証いただく際の参考としていただければと思います

1 Wyse Management Suite 1.3 概要

WMS は、Dell の全てのシンクライアントをサポートする管理ツールです。導入時のキッティングから、運用中の設定変更、アプリケーションの更新といったシンクライアントのライフサイクル全般の運用負荷を軽減いただけます。

1.1 機能概要

WMS では主に下記の機能を提供します。

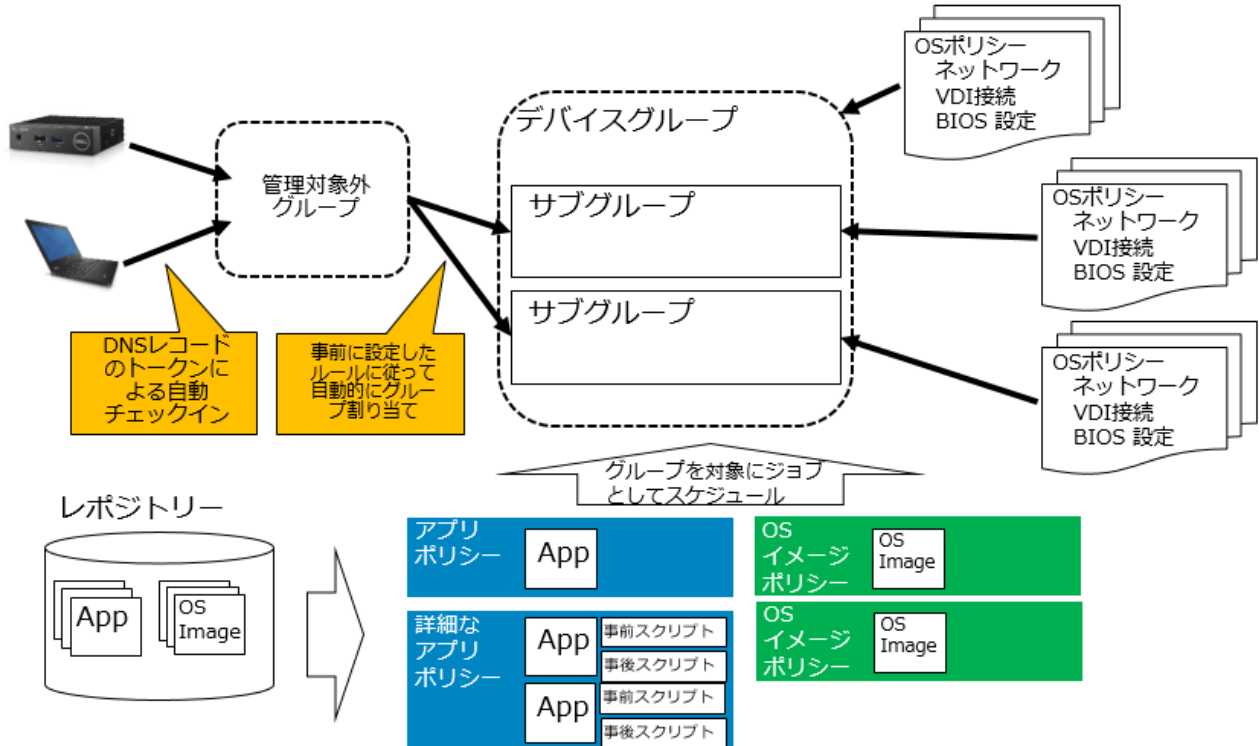
機能	説明
OS イメージの展開	Thin OS のアップデートイメージをネットワーク展開します
アプリケーションの展開	Thin OS のパッケージをネットワーク経由でリモートインストールします
アセット管理	お客様環境内のシンクライアントのアセット管理およびレポート
OS 設定の展開	OS 環境設定や VDI 接続設定、BIOS 設定などをネットワーク経由で展開します
リアルタイムコマンド発行	シャットダウン・ロック、再起動、デスクトップメッセージ送付、Wake on LAN 等を実行します
トラブルシューティング	シンクライアント情報の確認、OS ログの取得、画面ショットの取得など

1.2 管理概念

WMS におけるシンクライアントの管理概念について説明します。

概念	説明
デバイス	シンクライアント端末そのものです
デバイスグループ	用途、利用者層などの共通事項により分類するデバイスのグループです。WMS ではデバイスグループを中心として、設定や OS イメージ、アプリケーションの配信を実施します。デバイスグループは階層構造をとることが可能で、サブグループは親グループのポリシーを継承し、自身の個別ポリシーを追加定義可能です。
OS ポリシー	VDI 接続設定、システム設定、BIOS 設定（一部機種のみ）の定義です。OS 種類により設定可能な項目が異なります
レポジトリ	OS イメージやアプリケーションを保存するファイルサーバ

アプリポリシー	アプリケーションパッケージと展開ルールを定義したもの
詳細なアプリポリシー	アプリケーションパッケージと展開ルールを定義したもの。 複数アプリケーションの同時展開や事前/事後処理の定義も可能
OS イメージポリシー	OS イメージと展開ルールを定義したもの



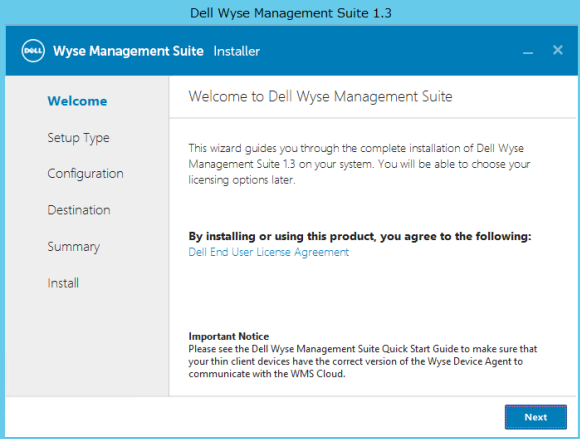
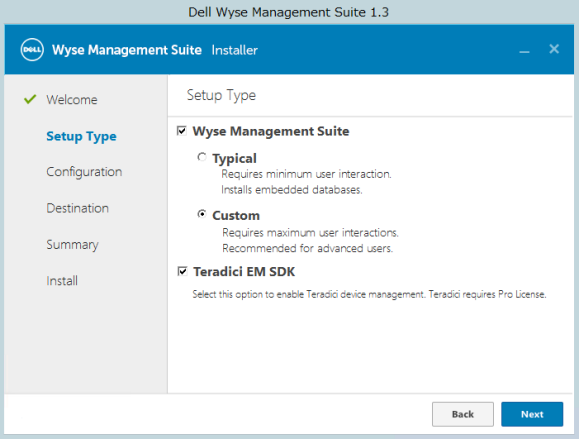
2 Wyse Management Suite 1.3 の導入

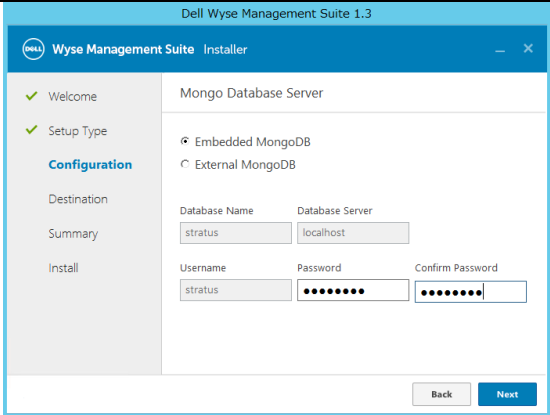
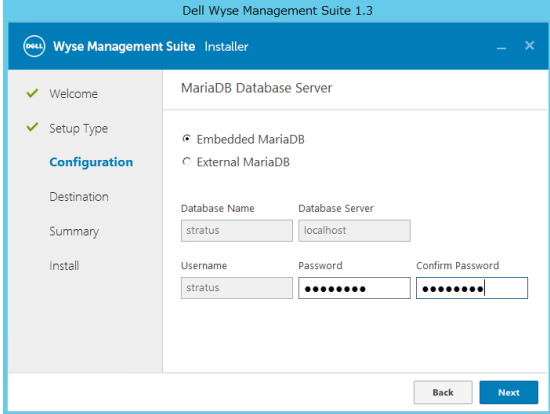
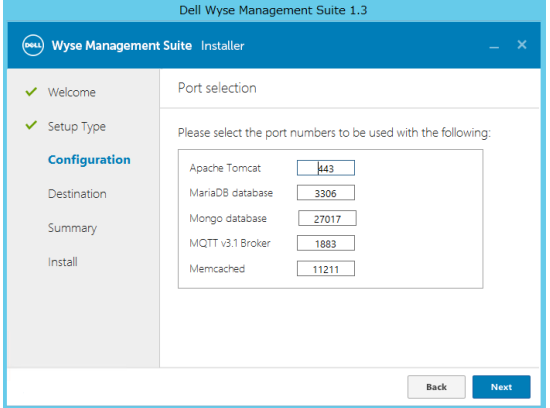
WMS は Windows Server OS 上に構築するサーバアプリケーションです。『Dell Wyse Management Suite バージョン 1.3 クイックスタートガイド』に記載のシステム要件に従って導入する OS 環境を準備します。

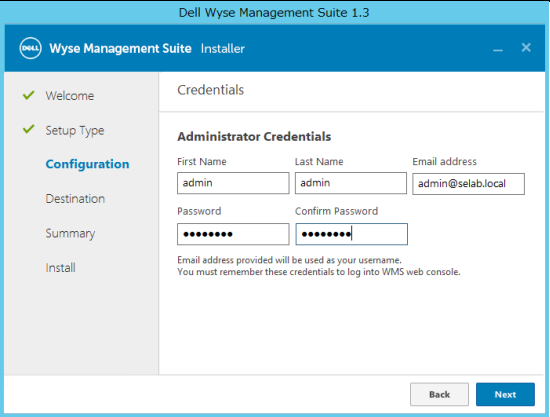
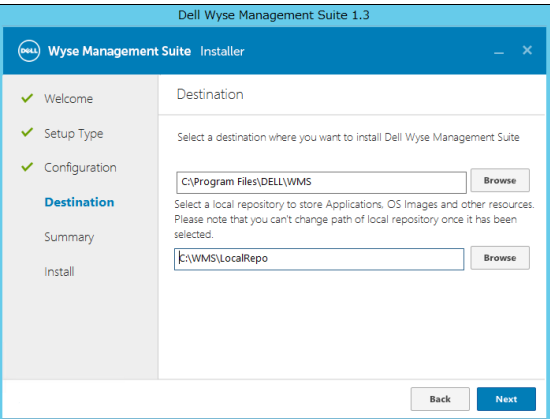
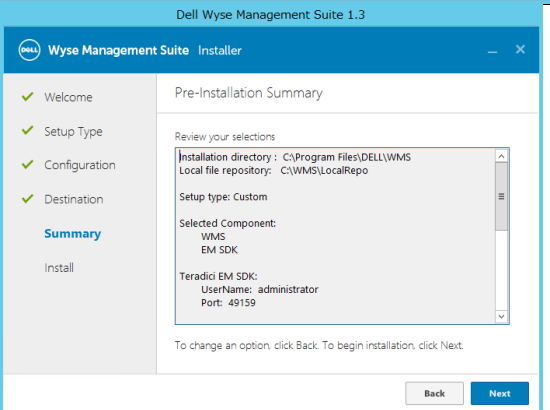
<https://www.dell.com/support/home/jp/ja/jpbsd1/product-support/product/wyse-wms/manuals>

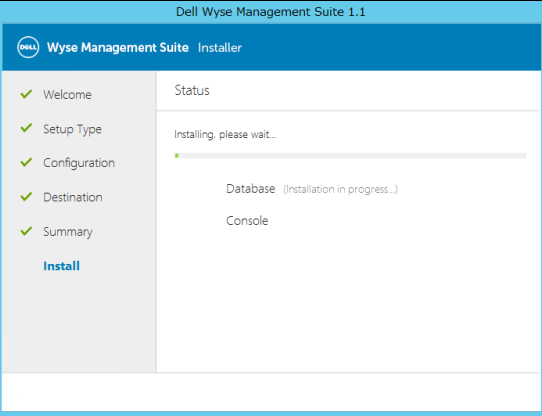
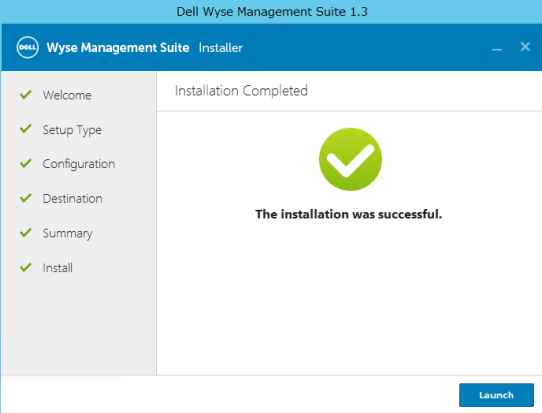
Wyse Management Suite 1.3 を下記 URL よりダウンロードし実行します。

<https://www.dell.com/support/home/jp/ja/jpbsd1/product-support/product/wyse-wms/drivers>

項番	画面	操作
1		<p>Welcome</p> <p>[Next] ボタンを押します</p>
2		<p>Setup Type</p> <p>セットアップ方法を選択します。 本書では[Custom] を選択し、 [Next]ボタンを押します。 WMS1.1 コンソールでは "IE Enhanced Security Configuration" をオフにする 必要があります。ここでチェッ クを入れることで、この設定を オフにすることができます。</p>


		<p>Wyse 5030 を管理する予定がない場合は Teradici EM SDK の項目はチェック不要です。</p>
<p>3</p>		<p>Configuration WMS で使用する DB MongoDB の設定を行います。 本書では WMS サーバに MongoDB を同居させる構成としますので、[Embedded MongoDB] を選択します。 MongoDB のユーザアカウント stratus のパスワードを設定し、[Next] ボタンを押します。</p>
<p>4</p>		<p>MariaDB Database Server WMS で使用する MariaDB の設定を行います。本書では WMS サーバに MariaDB を同居させる構成としますので、[Embedded MariaDB] を選択します。 MariaDB のユーザアカウント stratus のパスワードを設定し、[Next] ボタンを押します。</p>
<p>5</p>		<p>Port selection WMS の各サービスで使用するポート番号を設定し、[Next] ボタンを押します。</p>

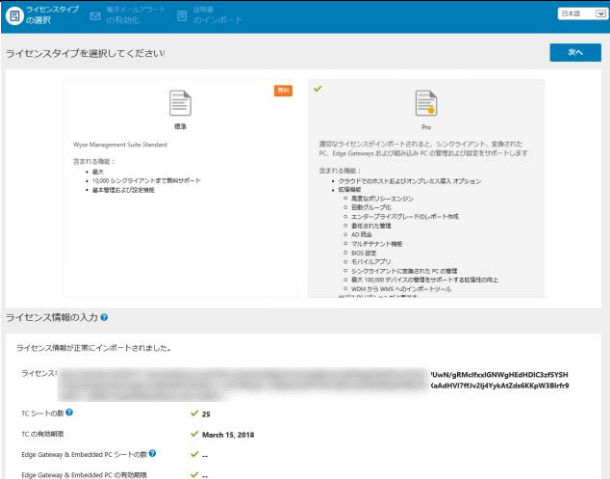


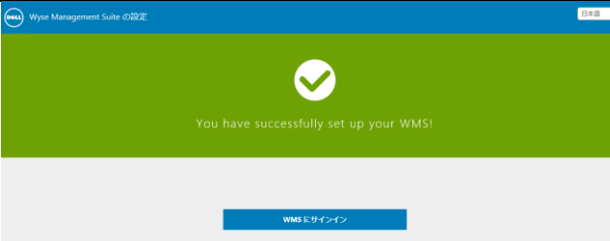
<p>6</p>		<p>Credential</p> <p>管理者ユーザアカウントの設定を行います。WMSのローカルアカウントを作成することになります。</p> <p>First Name, Last Name, Email Address とパスワードを入力します。</p> <p>ここで入力した Email Address が以降の WMS UI で使用する管理者になります。</p> <p>[Next] ボタンを押します。</p>
<p>7</p>		<p>Destination</p> <p>WMSをインストールするフォルダ、およびローカルレポジトリとして使用するフォルダを指定します。</p> <p>[Next]ボタンを押します。</p>
<p>8</p>		<p>Pre-Installation Summary</p> <p>ウィザードで設定した内容を確認の上、[Next]ボタンを押します。</p>

9		<p>以上の入力が終わると、インストールが開始されます。 環境に依存しますが、5分程度で完了します。</p>
10		<p>左画面が表示されたらインストール完了です。 [Launch] ボタンを押すことで初期セットアップウィザードを起動します。</p>

2.1 初期セットアップウィザード

インストール UI の最後に [Launch] ボタンを押すか、ブラウザより URL “<https://<WMS FQDN>/ccm-web/setup>” にアクセスすることで初期セットアップウィザードを起動できます。初期セットアップウィザードではライセンスタイプの選択およびライセンスキーの入力、メール通知設定、WMS の証明書設定をウィザードにて実施いただけます。

項番	画面	操作
1		<p>Wyse Management Suite へようこそ</p> <p>[開始する] ボタンを押します</p>
2		<p>ライセンスタイプを選択してください</p> <p>導入する WMS の Edition を選択します。本書では Pro を選択します。</p>
3		<p>Pro を選択した場合、ライセンスキー情報を入力する必要があります。画面下部のライセンスキーの入力にライセンスキーを入力して [インポート] ボタンを押します。</p>

<p>4</p>		<p>入力したライセンスが確認され、問題なければ [次へ] ボタンを押します。</p>
<p>5</p>		<p>電子メールアラートの設定 WMS からのメール通知機能を設します。本書ではメール通知機能は設定しませんので、[スキップ]ボタンを押して先に進みます。</p>
<p>6</p>		<p>証明書のインポート WMS で使用する証明書を設定します。本書では管理 UI にて設定するため、ここでの設定は割愛します。[スキップ] を押して次に進みます。</p>
<p>7</p>		<p>以上にて初期セットアップウィザードの操作は完了です。</p>

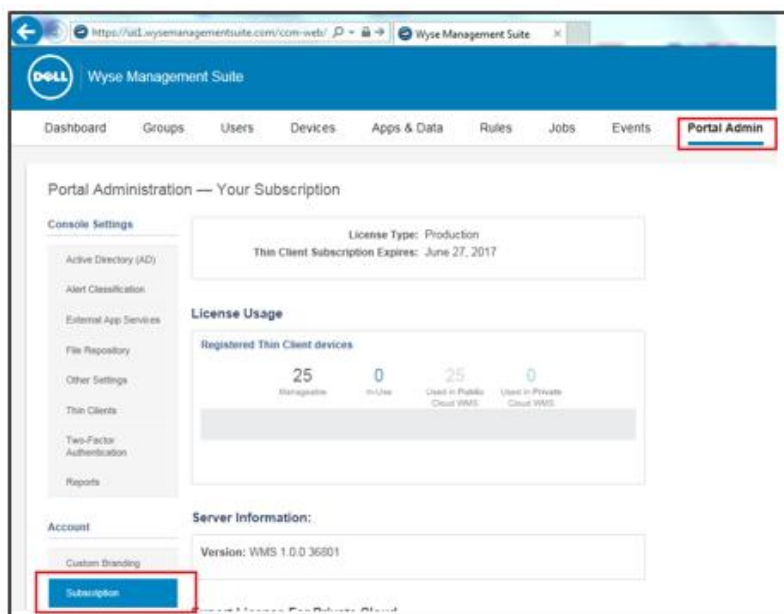
2.2 WMS Pro の評価ライセンスキーの入手について

Dell では WMS Pro の 45 日間の評価用ライセンスキーを提供しています。以下の URL にて必要事項を入力いただくことでライセンスキーを入手いただけます。

評価用ライセンスキーを入手いただく際に、お客様ドメインの E メールアドレスの入力が必要となります。お使いいただけるメールアドレスは、お客様ドメインにつき 1 つとなります。登録いただいた E メールアドレスは、評価後に WMS Pro をご購入いただいた際に、Pro のライセンスを付与させていただくアドレスとなります。

<https://www.wysemagementsuite.com/trial.aspx>

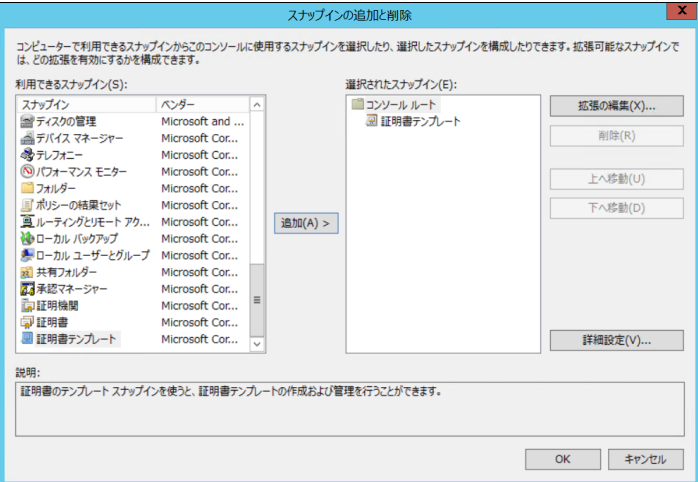
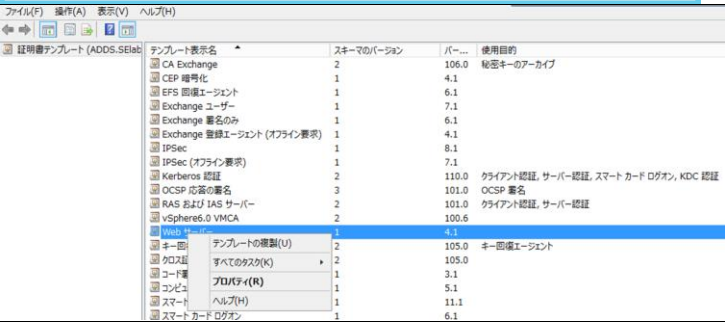
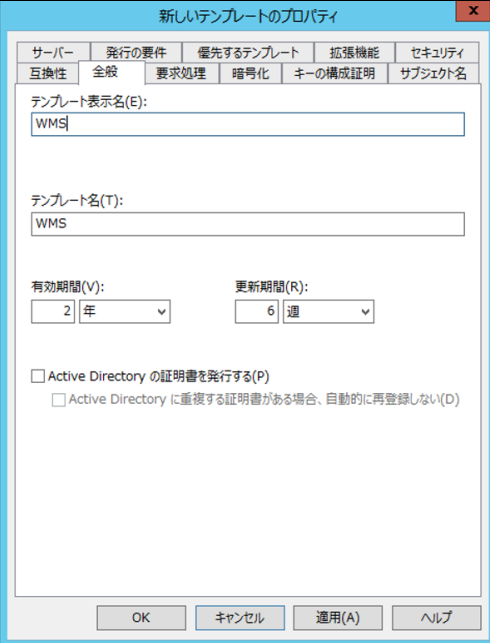
オンプレミスにて構築する WMS で入力するライセンスキーは一旦クラウド版 WMS のコンソールのライセンス管理画面にて、オンプレミス利用用のライセンスキーとしてエクスポートすることで入手いただけます。

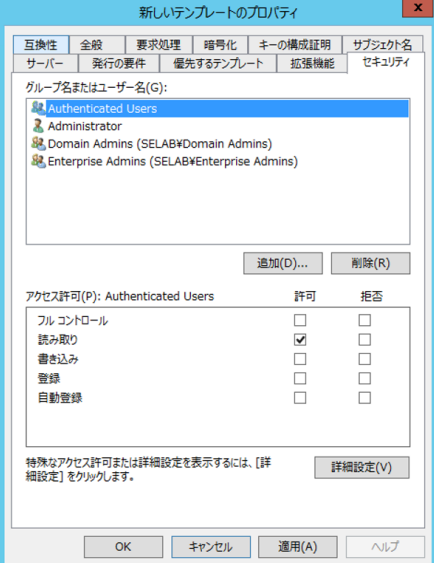
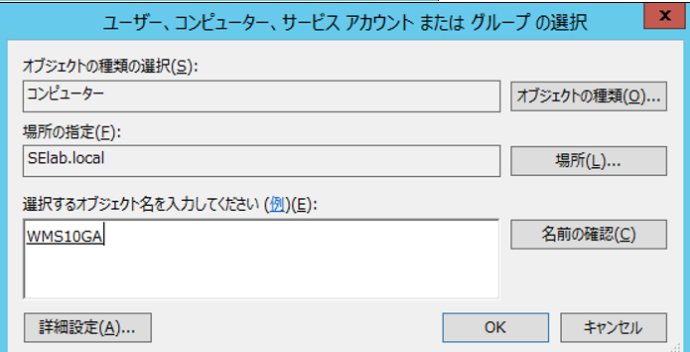
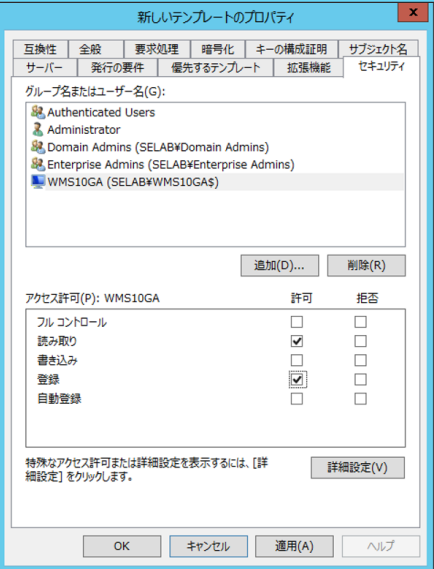


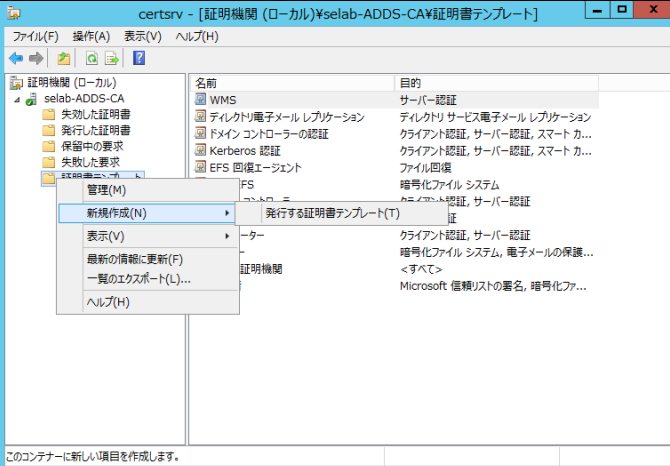
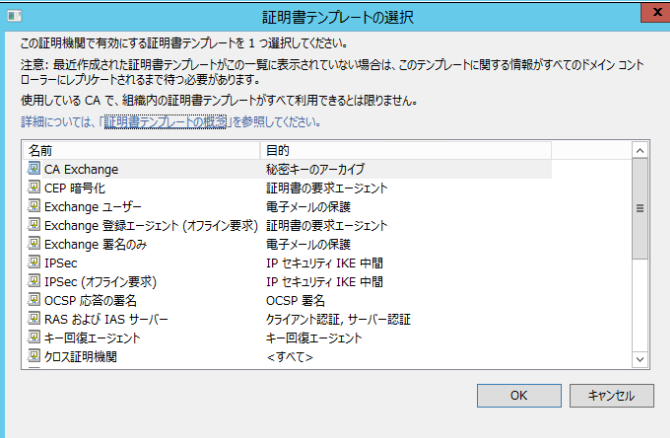
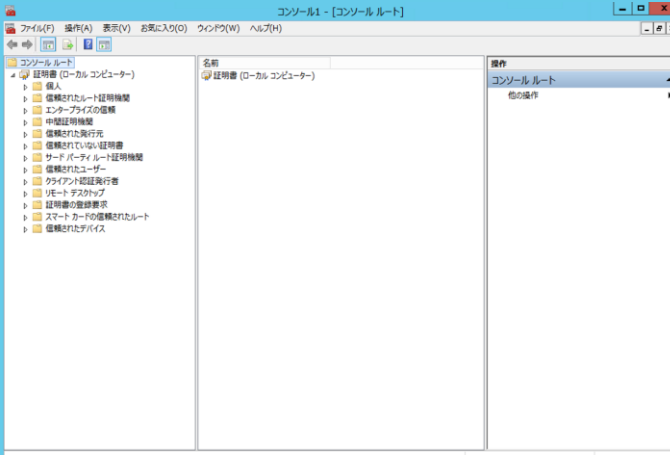
2.3 WMS のシステム設定

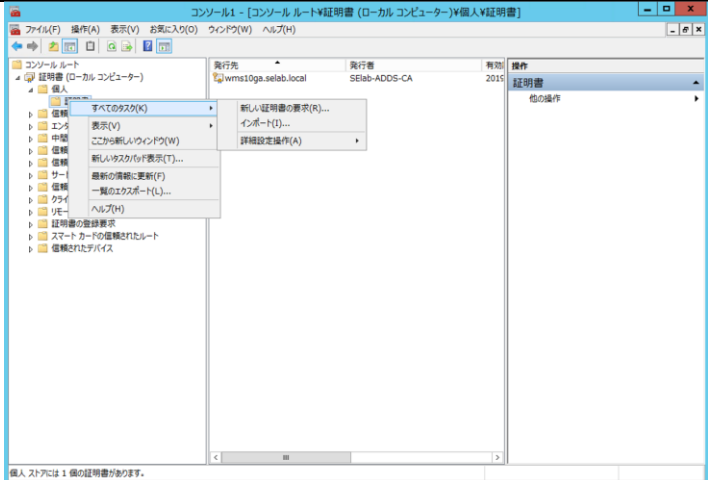
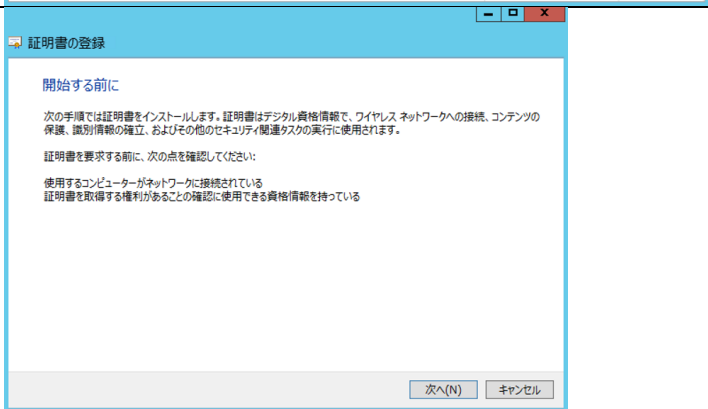
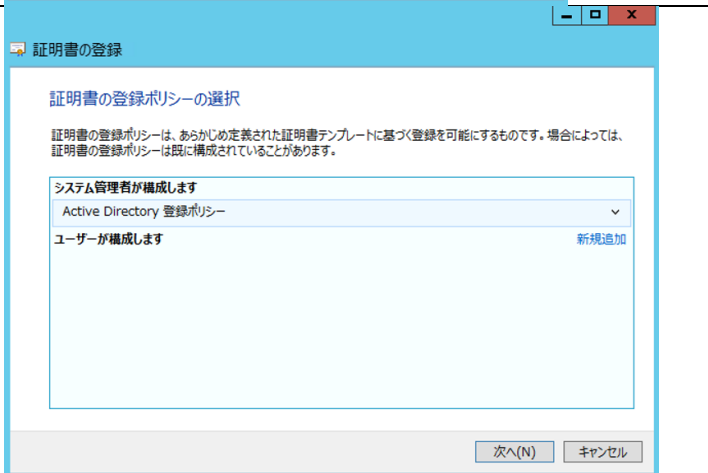
WMS コンソールより証明書の登録、AD 管理ユーザ連携、デフォルトデバイスグループを設定します。

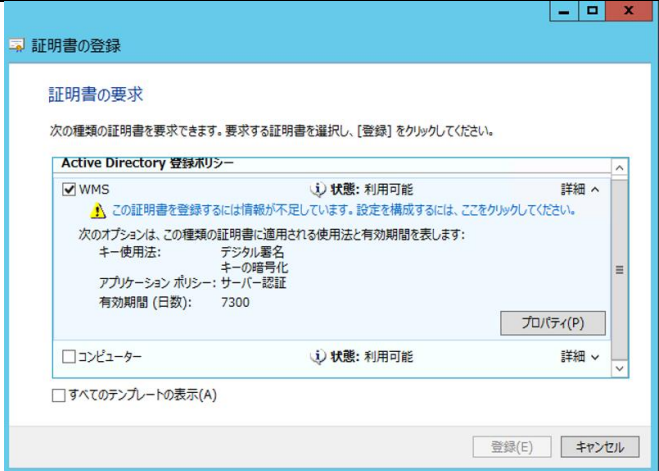
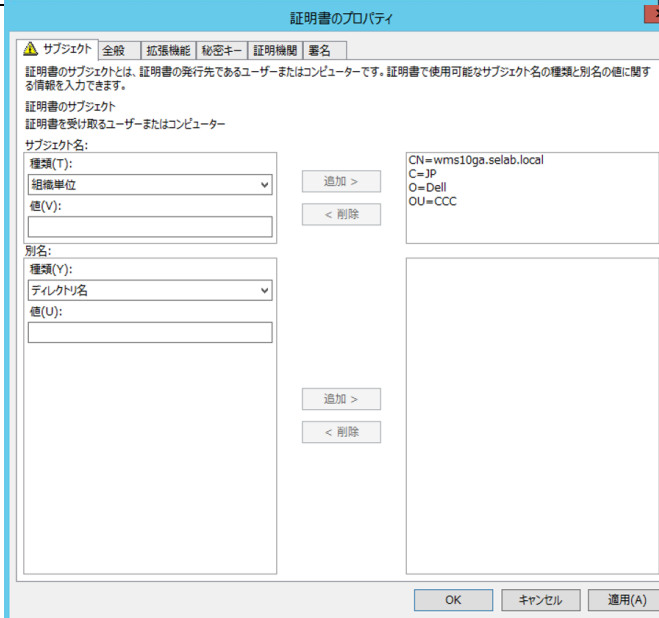
本書では Active Directory 証明書サービスが導入されている前提で設定手順を説明します。

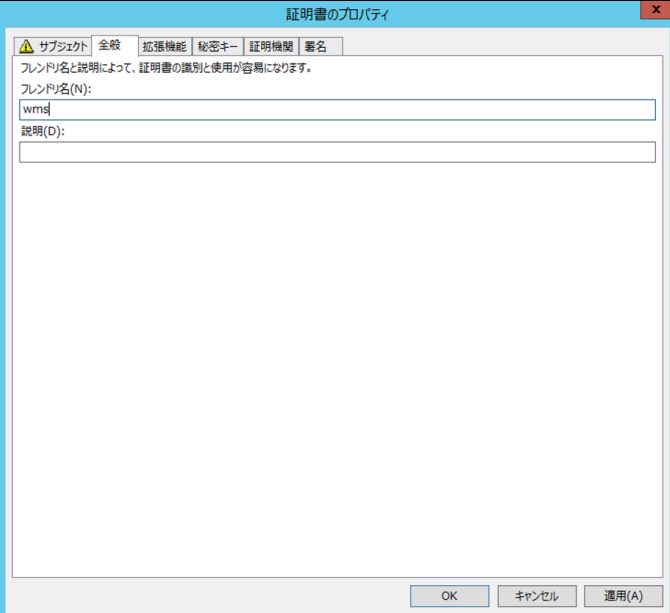
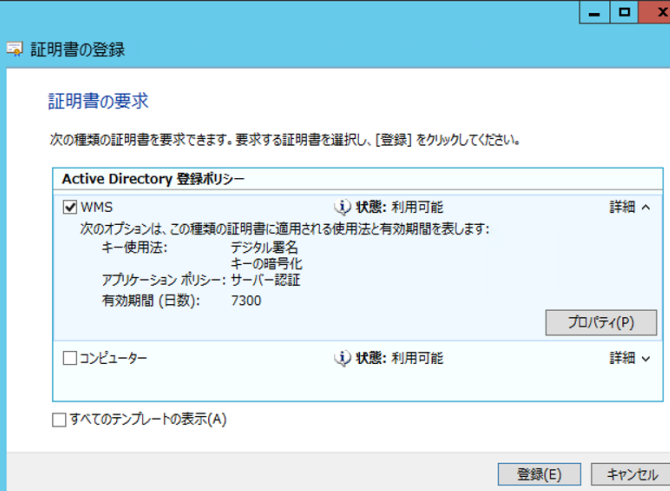
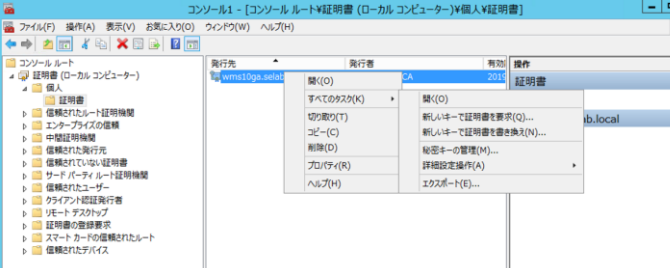
手順	画面	説明
1		<p>AD 証明書サービスが導入されているホストにログインし、MMC を起動し、「証明書テンプレート」スナップインを追加します。</p>
2		<p>デフォルトのテンプレート「Web サービス」を複製します</p>
3		<p>新しいテンプレートのプロパティ 全般->テンプレートの表示名 を設定します また、有効期間も企業のポリシーに準じて変更します。</p>

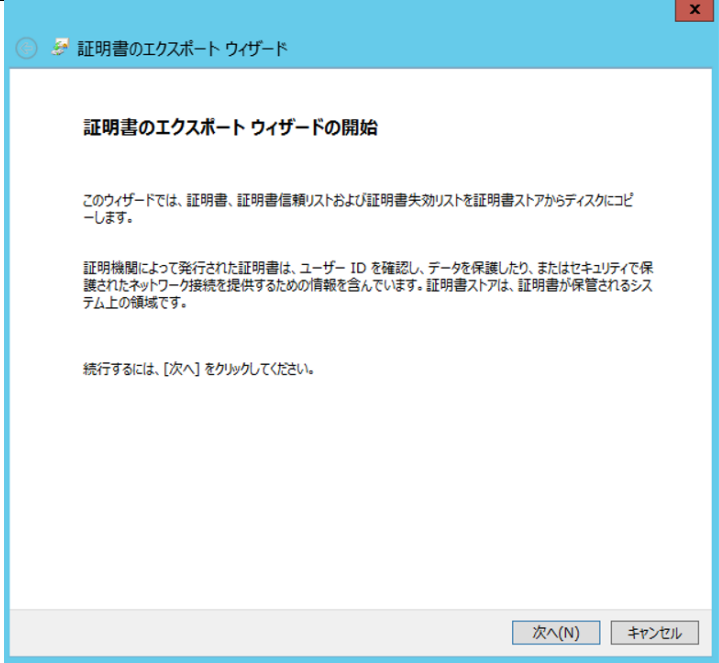
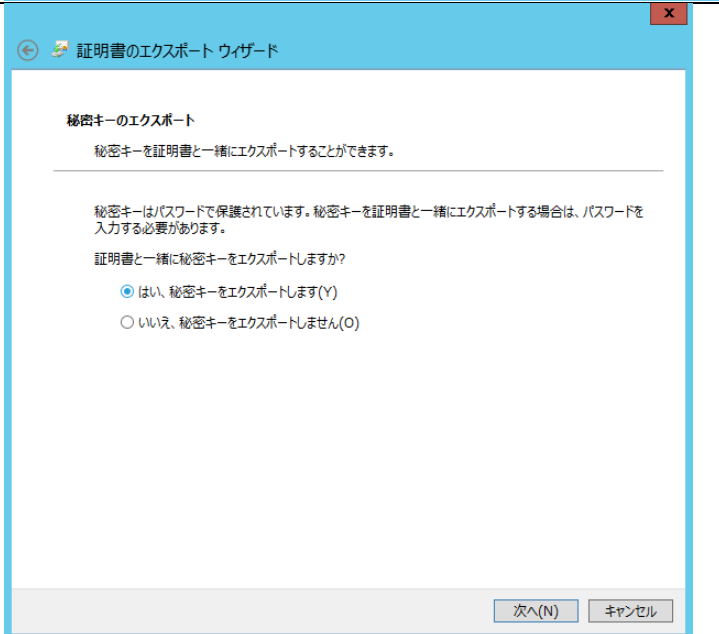
<p>4</p>		<p>新しいテンプレートのプロパティ セキュリティ->グループ名またはユーザー名にて WMS をホストするコンピュータアカウントを追加します。 [追加] ボタンを押します</p>
<p>5</p>		<p>[オブジェクトの種類] ボタンを押し、コンピュータを選択します。 [選択するオブジェクト名を入力してください]の欄に WMS のホスト名を入力し、 [名前の確認] ボタンを押します。 完了したら [OK] ボタンを押します</p>
<p>6</p>		<p>追加したコンピュータアカウントに対するアクセス許可設定を追加します。 [登録] のアクセスの「許可」にチェックを入れて、OK を押します。</p>

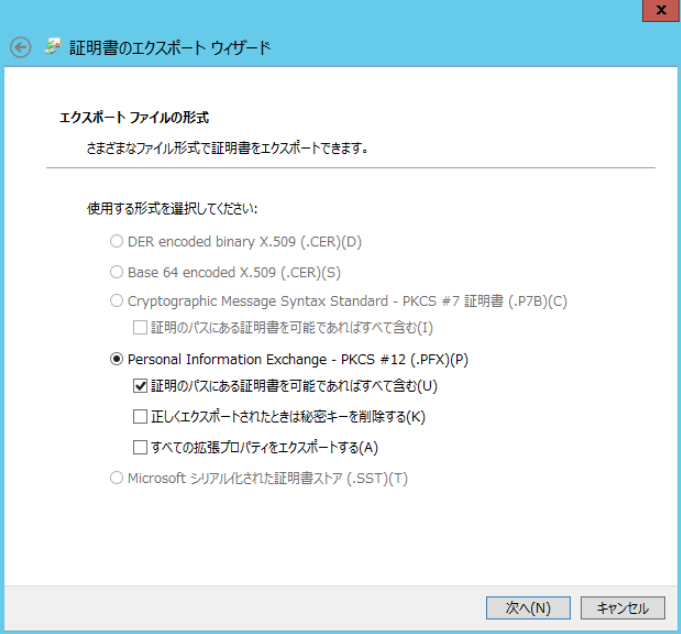
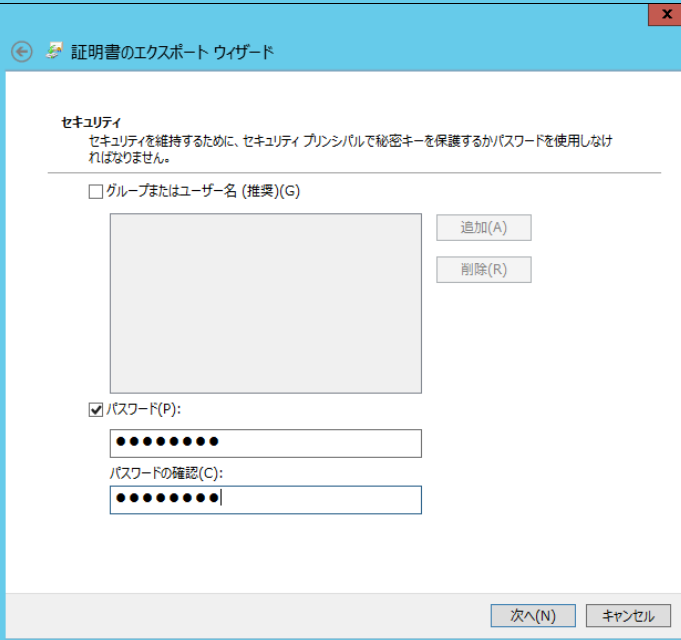
<p>7</p>		<p>証明機関管理ツールを起動します。</p> <p>「証明書テンプレート」を右クリックし、「発行する証明書テンプレート」を選択します。</p>
<p>8</p>		<p>先ほど作成した WMS の証明書テンプレートを選択して「OK」ボタンをクリックします。</p>
<p>9</p>		<p>WMS を導入したホストにログインし、MMC を起動し、ローカルコンピュータアカウントの「証明書」スナップインを追加します。</p>

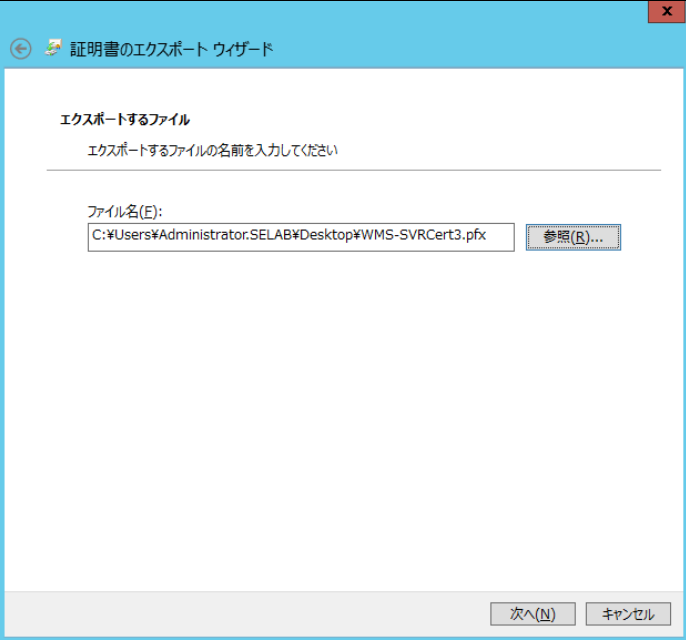
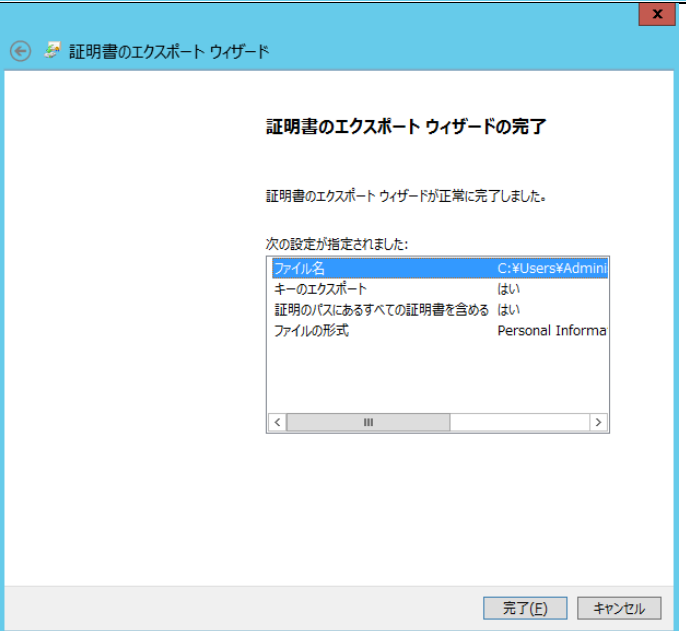
<p>10</p>		<p>証明書->個人->証明書 を右クリックし、すべてのタスク->新しい証明書の要求を選択します。</p>
<p>11</p>		<p>開始する前に [次へ] をクリックします。</p>
<p>12</p>		<p>証明書登録ポリシーの選択 [Active Directory 登録ポリシー] を選択し、[次へ] ボタンを押します。</p>

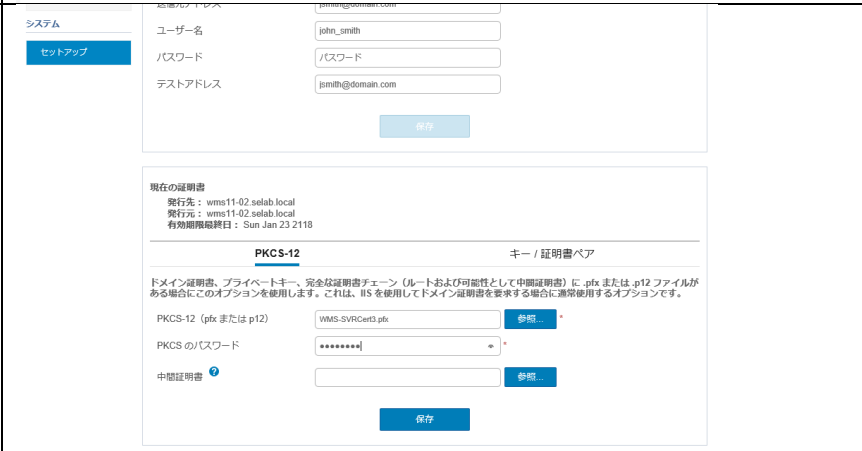
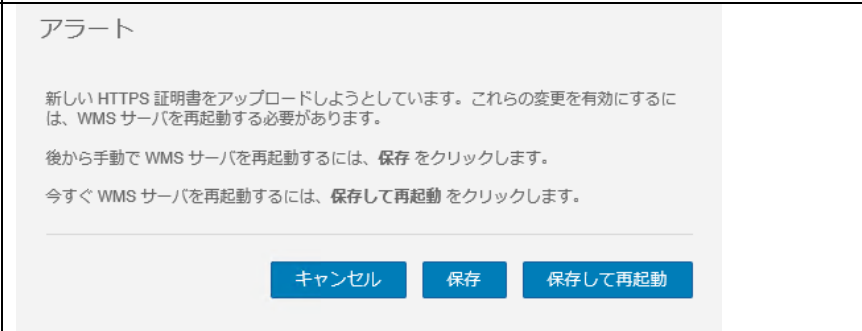
<p>13</p>		<p>証明書の要求</p> <p>先ほど新規作成したテンプレートを選択し、[プロパティ] ボタンを押します。</p>
<p>14</p>		<p>証明書のプロパティ</p> <p>サブジェクトタブにて必要事項を入力します。本書では下記を設定します</p> <p>共通名 wms11.selab.local</p> <p>国 JP</p> <p>組織 Dell</p> <p>組織単位 CCC</p>

<p>15</p>		<p>証明書のプロパティ 全般タブにてフレンドリ名を入力します。本書では“WMS”と入力します。 [適用] し、[OK]ボタンを押します。</p>
<p>16</p>		<p>証明書の登録 [登録] ボタンを押します。</p>
<p>17</p>		<p>新しく登録した証明書を右クリックし、すべてのタスク->エクスポートを選択します。</p>

18		証明書のエクスポートウィザード [次へ] ボタンを押します。
19		秘密キーのエクスポート 「はい、秘密キーをエクスポートします」を選択し、[次へ] を押します。

<p>20</p>		<p>エクスポートファイルの形式 「Personal Information Exchange - PKCS #12 (.PFX)」を選択し、[次へ]を押します。</p>
<p>21</p>		<p>セキュリティ パスワードのチェックボックスへチェックを入れ、パスワードを入力します。 「次へ」をクリックします。</p>

<p>22</p>		<p>エクスポートファイル 保存先とファイル名を入力して、[次へ] を押します。</p>
<p>22</p>		<p>[完了]を押します。</p>

<p>23</p>		<p>WMSのWeb コンソールにサインインし、「ポータル管理」タブを選択します。</p>
<p>24</p>		<p>システム-> セットアップ を選択します。 PKCS-12 横の [参照...] ボタンを押し、エクスポートした証明書ファイルを選択し、[保存] ボタンを押します。</p>
<p>25</p>		<p>アラート がポップアップします。 [保存して再起動] を押します。WMS サービスが再起動し、設定が完了します。</p>

<p>26</p>		<p>本書の手順の場合、「Can not CRL for certificate, CN=wms11.selab.local OU=CCC, O=Dell, C=JP 検証をスキップして保存を選択します。これは推奨されません。」が表示されます。</p> <p>「検証をスキップして保存」をクリックします。</p> <p>180 秒後にサービスの再起動の後、ページが更新されます。</p>
-----------	--	---

2.4 デバイスの登録環境の構築

本書では、デバイスが自動的にチェックイン（WMS への登録）し、デフォルトの“管理対象外グループ”からタイムゾーン毎のデバイスグループに自動グルーピングされる環境とします。

“管理対象外グループ”のグループトークンの設定

手順	画面	説明
<p>1</p>		<p>WMS コンソールにサインインし、Group タブを選択します。</p> <p>左ペインの「管理対象外グループ」を選択し、ペンマークをクリックします。</p>

<p>2</p>		<p>編集 管理対象外グループ</p> <p>グループトークン 配下のトークン欄に任意のテキストを入力します。</p> <p>[保存] ボタンを押します。</p>
----------	---	---

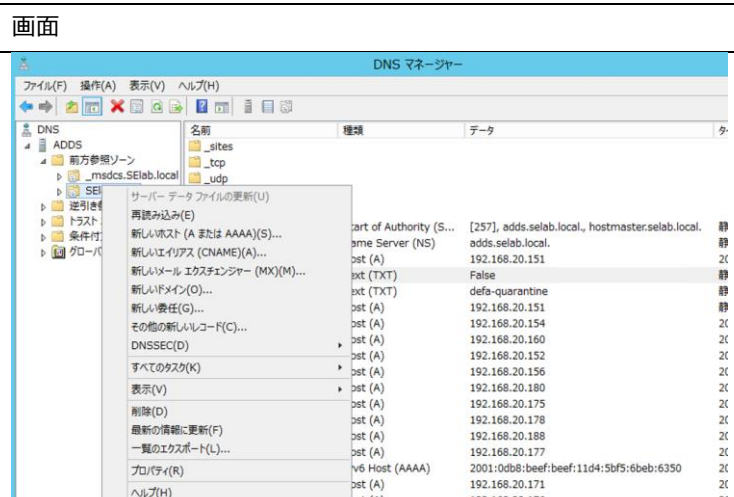
自動デバイスグルーピングの設定 (WMS Pro のみ)

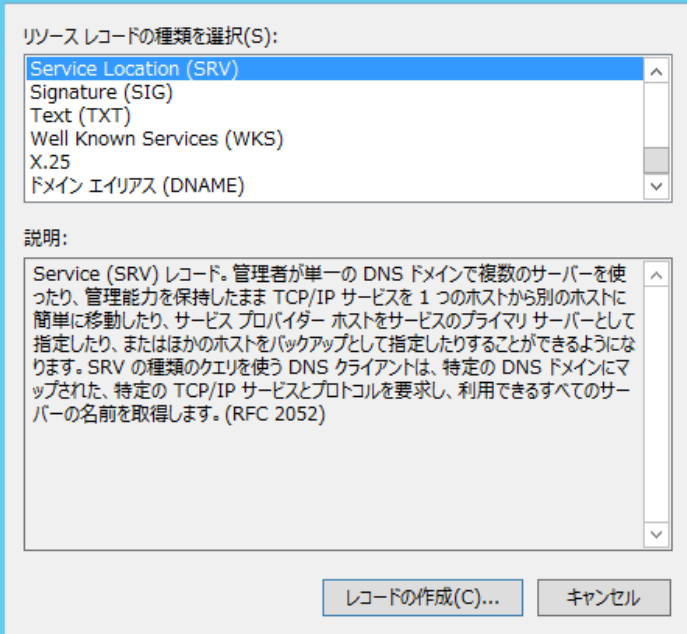
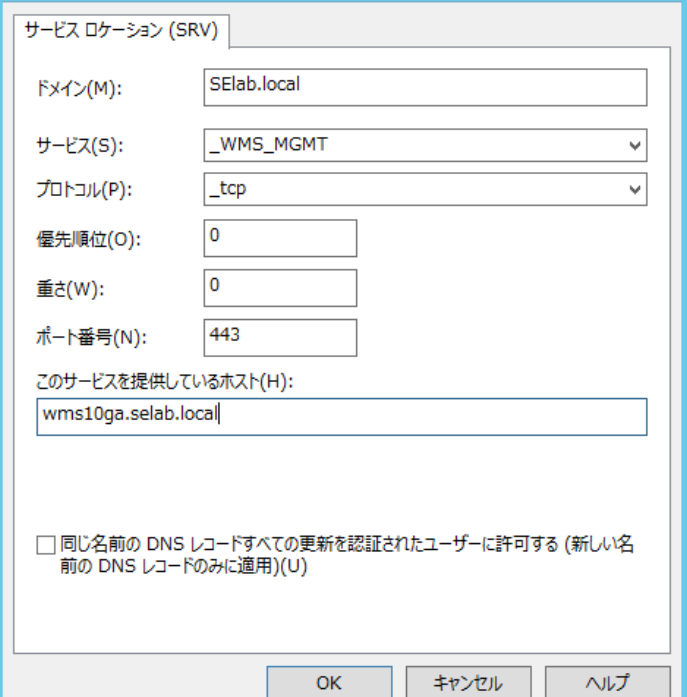
手順	画面	説明
<p>1</p>		<p>WMS にサインインし、ルール タブを開きます。</p> <p>左ペインにて、「管理対象外のデバイスの自動割り当て」を選択します。</p> <p>右ペインにて「ルールの追加」を押します。</p>
<p>2</p>		<p>デバイス自動割り当ての新規ルールの作成</p> <p>名前欄にルール名を入力します。</p> <p>宛先グループ は「デフォルトポリシーグループ」のままとします。</p> <p>「状態の追加」ボタンを押します。</p> <p>追加されたコンディションにて下記設定を選択します。</p> <p>属性 : サブネット</p> <p>値 : 任意の値</p> <p>アクション : 固有の値ごとに宛先グループの下にグループを作成する</p> <p>最後に「保存」 ボタンを押します。</p>

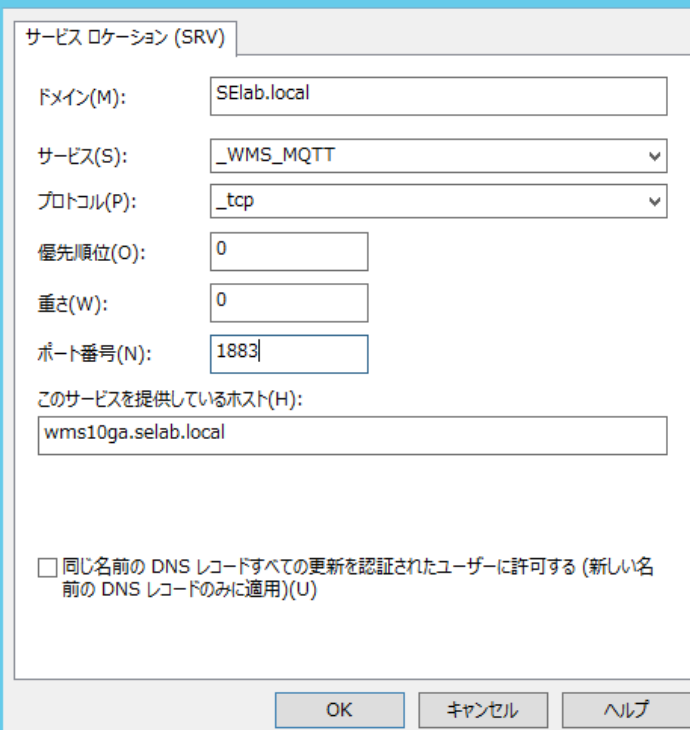
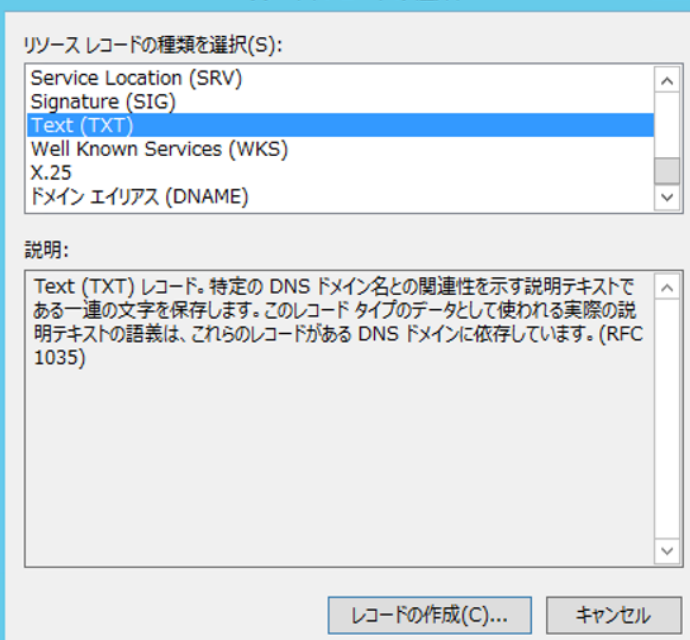
3		<p>以上で設定は完了です。</p>
---	---	--------------------

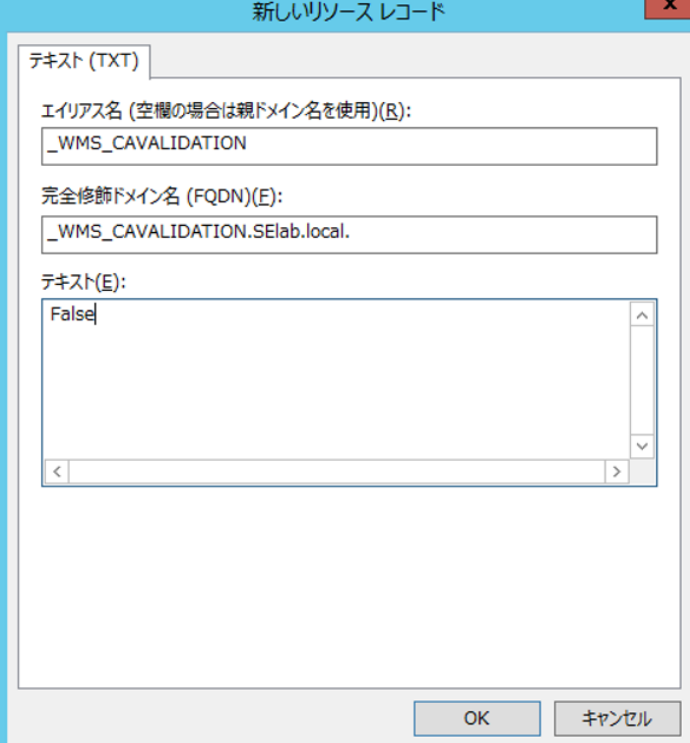
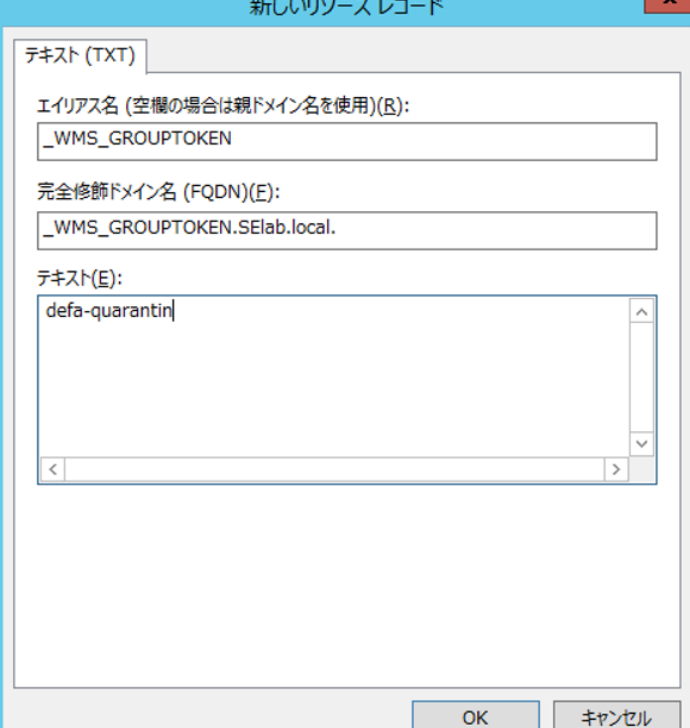
2.5 自動チェックインのネットワーク環境の構成

WMS では DHCP や DNS によってデバイスが WMS の情報を取得し、自動的にチェックインすることが可能です。本書では DNS を用いて自動チェックインさせる設定を行います。

手順	画面	説明
1		<p>DNS をホストするサーバにログインし、DNS マネージャを起動します。</p> <p>WMS を利用する DNS ドメインを右クリックし、[その他の新しいレコード] を選択します。</p>

2		<p>リソースレコードの種類</p> <p>Service Location (SRV) を選択し、 [レコードの作成] を押します。</p>
3		<p>新しいリソースレコード</p> <p>以下を入力し、[OK] を押します。</p> <p>サービス : _WMS_MGMT プロトコル : _tcp ポート番号 : 443 このサービスを提供しているホスト : <WMS サーバの FQDN></p>

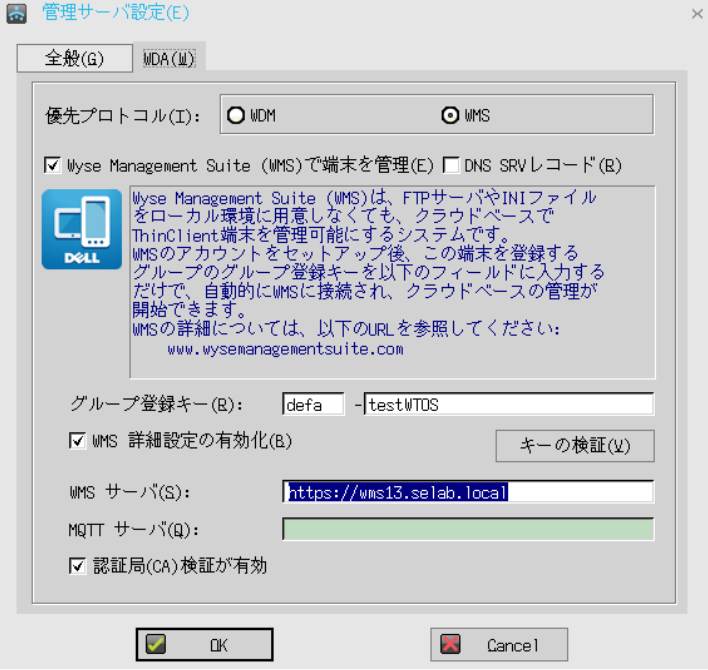
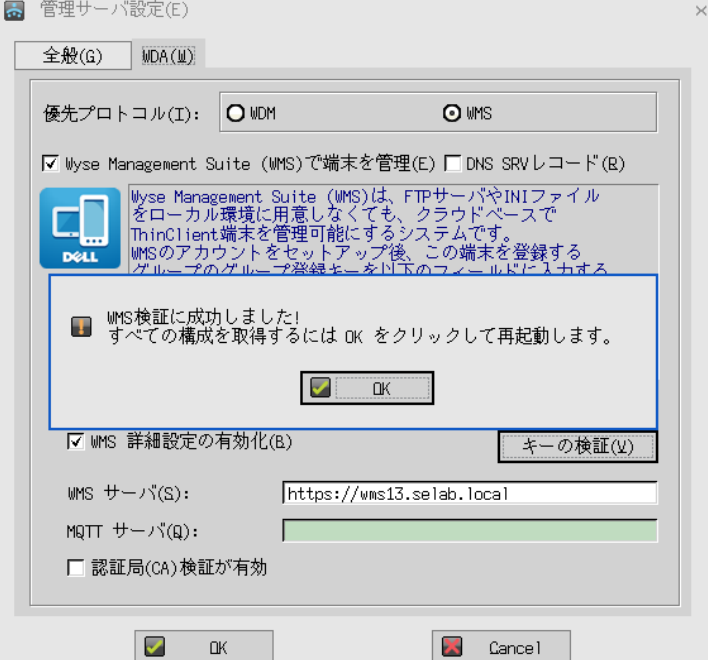
4	 <p>新しいリソースレコード</p> <p>サービス ロケーション (SRV)</p> <p>ドメイン(M): SElab.local</p> <p>サービス(S): _WMS_MQTT</p> <p>プロトコル(P): _tcp</p> <p>優先順位(O): 0</p> <p>重さ(W): 0</p> <p>ポート番号(N): 1883</p> <p>このサービスを提供しているホスト(H): wms10ga.selab.local</p> <p><input type="checkbox"/> 同じ名前の DNS レコードすべての更新を認証されたユーザーに許可する (新しい名前の DNS レコードのみに適用)(U)</p> <p>OK キャンセル ヘルプ</p>	<p>手順 2,3 同様に新しいリソースレコードを作成します。</p> <p>サービス : _WMS_MQTT プロトコル : _tcp ポート番号 : 1883 このサービスを提供しているホスト : <WMS サーバの FQDN></p>
5	 <p>リソースレコードの種類</p> <p>リソースレコードの種類を選択(S):</p> <ul style="list-style-type: none"> Service Location (SRV) Signature (SIG) Text (TXT) Well Known Services (WKS) X.25 ドメインエイリアス (DNAME) <p>説明:</p> <p>Text (TXT) レコード。特定の DNS ドメイン名との関連性を示す説明テキストである一連の文字を保存します。このレコードタイプのデータとして使われる実際の説明テキストの語義は、これらのレコードがある DNS ドメインに依存しています。(RFC 1035)</p> <p>レコードの作成(C)... キャンセル</p>	<p>手順 2 同様に新しいリソースレコードを追加します。</p> <p>リソースレコードの種類として Text(TXT) を選択し、[レコードの作成] を押します。</p>

6		<p>新しいリソースレコード 以下を入力し、[OK] を押します。</p> <p>エイリアス名 : _WMS_CAVALIDATION テキスト : False</p>
7		<p>手順 5,6 同様に新しい TXT リソースレコードを作成します。 以下を入力し、[OK] を押します。</p> <p>エイリアス名 : _WMS_GROUPTOKEN テキスト : <管理対象外グループのトークン></p>

2.6 チェックインのネットワーク環境の手動構成

DHCP や DNS を利用しない場合、Wyse ThinOS の手動設定によって WMS へチェックインすることが可能です。DHCP または DNS を用いた自動チェックインを利用する場合は設定不要です。

手順	画面	説明
1		<p>Wyse ThinOS 端末を起動し、デスクトップの左クリックメニューより以下を選択します。</p> <p>システム設定 > 管理サーバ設定</p>
2		<p>管理サーバ設定</p> <p>[WDA] タブを選択します</p>

3		<p>必要事項を入力します本書では下記を入力します。</p> <p>Wise Management Suite で端末を管理: チェックを入れます</p> <p>グループ登録キー: <管理対象外グループのトークン></p> <p>WMS 詳細設定の有効化: チェックを入れます</p> <p>WMS サーバ: WMS サーバの FQDN を入力します</p> <p>認証局検証が有効: WMS の設定に合わせます</p> <p>※WMS クラウドを利用の場合、以下のデフォルト設定とします。</p> <p>WMS サーバ: https://us1.wysemanagementsuite.com</p> <p>MQTT サーバ: us1-pns.wysemanagementsuite.com</p>
4		<p>入力後に [キーの検証] をクリックします。</p> <p>WMS サーバとの接続が確認され、成功すると左画面ショットのようにポップアップが表示されます。</p> <p>[OK] をクリックします。</p> <p>端末が再起動し、起動時に WMS にチェックインします。</p>

3 デバイスポリシー設定

WMS ではデバイスグループに所属するデバイスに対する設定を「ポリシー」として定義することができます。設定できる項目はシステムの設定から、VDI 環境への接続設定情報、BIOS 設定（モバイルシンクライアント、Wyse 3040、5070、7040 のみ）に至ります。

本書では Wyse ThinOS 端末に VMware Horizon への接続情報を設定してゆきます。




手順	画面	説明
1		<p>WMS へサインインし、[グループ&設定]タブを選択します。</p> <p>左ペインよりポリシーを定義するデバイスグループを選択します。</p> <p>右ペイン、[ポリシーの編集]を押し、OS 種別を選択します。</p> <p>本書では ThinOS を選択します。</p>
2	<p>ThinOS 設定モードの選択</p> <p>ThinOS を設定する際、頻繁に使用されるパラメータの設定にウィザードを使用しますか、または詳細設定を使用しますか?</p> <p><input type="checkbox"/> この質問を表示せずに、ThinOS Advanced Configuration ページを開きます。このダイアログを再度表示するには、右上のログインメニューにある、ユーザープロファイル > ポリシーで ThinOS ウィザードモードを使用するかどうかを確認するボックスをオンにします。</p> <p>キャンセル ウィザード 詳細設定</p>	<p>ThinOS 設定モードの選択</p> <p>ポップアップが表示されます。[詳細設定]を押しします。</p>
3		<p>左ペインより [VMware ブローカ] を選択し、右ペインに表示された [この項目を設定する]を押しします。</p>


4		<p>VMware ブローカ 必要事項を入力して[保存して公開]を押します。 本書では下記を入力します。</p> <p>ブローカサーバ：<接続サーバの FQDN> セキュリティモード：警告 プロトコル：Blast</p>
---	--	--

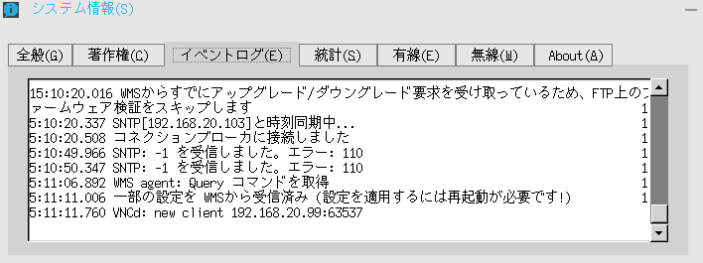
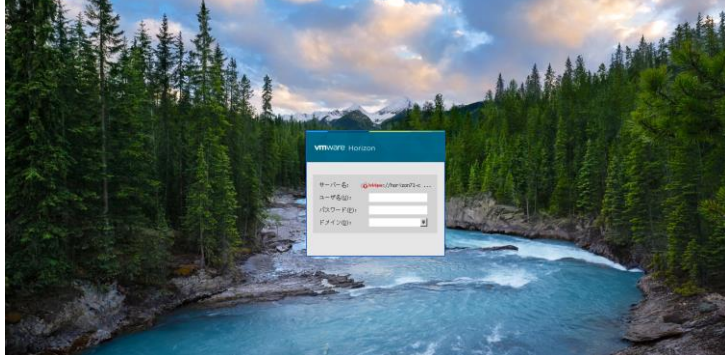
3.1 ThinOS ファームウェアの更新

WMS では各種環境設定の他に、ThinOS ファームウェア自体の更新を展開することができます。本書では、Wyse 3040 端末に Wyse ThinOS 8.5_024 を自動展開する設定をしてゆきます。

手順	画面	説明
1		<p>WMS へサインインし、[アプリとデータ]タブを選択します。 左ペインより [OS イメージリポジトリ] -> [ThinOS]を選択します。</p> <p>右ペインにて[ファームウェアファイルの追加]を押します。</p>
2		<p>ファイルの追加 ファイルの追加ポップアップが表示されます。 [参照]ボタンを押し、あらかじめ Dell のサポートサイトよりダウンロードしておいた Wyse 3040 の OS イメージファイル (xxx.jp ファイル) を選択します。</p>

		<p>[説明]欄にこのファームウェアの情報を記載します。</p> <p>例：3040PCoIP_8.5_024</p> <p>最後に[アップロード]を押します。</p>
<p>3</p>		<p>右ペインのファームウェアファイルリストにて、新規に追加したファームウェアファイルが確認できます。</p>
<p>4</p>		<p>上ペインにて[グループ&設定]を選択し、左ペインよりファームウェアの更新対象を含むポリシーグループを選択します。</p> <p>右ペインにて、[ポリシーの編集] - [ThinOS]を選択します。</p>
<p>5</p>	<p>ThinOS 設定モードの選択</p> <p>ThinOS を設定する際、頻繁に使用されるパラメータの設定にウィザードを使用しますか、または詳細設定を使用しますか？</p> <p><input type="checkbox"/> この質問を表示せずに、ThinOS Advanced Configuration ページを開きます。このダイアログを再度表示するには、右上のログインメニューにある、ユーザープロフィール > ポリシー > ThinOS ウィザードモードを使用するかどうかを確認する ボックスをオンにします。</p> <p>キャンセル ウィザード 詳細設定</p>	<p>ThinOS 設定モードの選択</p> <p>ポップアップが表示されます。[詳細設定]を押します。</p>
<p>6</p>		<p>左ペインより[ファームウェアのアップグレード]を選択し、</p> <p>右ペインにて[この項目を設定する]を押します。</p>

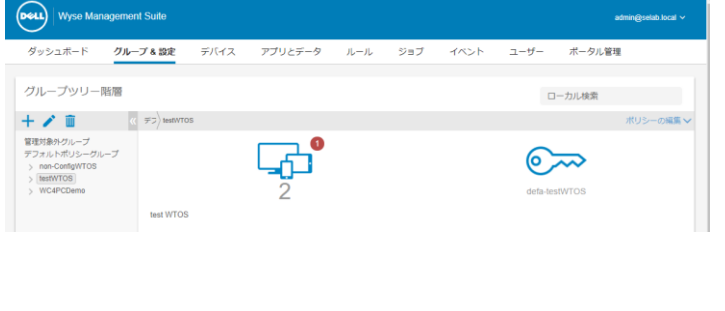
<p>7</p>	<p>ファームウェアのアップグレード</p> 	<p>ファームウェアのアップグレード 右ペインにて必要事項を入力します。 本書では下記設定とします。</p> <p>ライブアップグレードを無効にする： チェックを入れます ファームウェアアップデートロジック： 異なるファームウェア ローカルファームウェアチェックをスキップ： チェックを入れます 署名の検証： チェックを入れます BIOS アップグレードを有効にする： チェックを外します プラットフォームタイプ： 3040 PCoIP 自動導入のためのファームウェア： 8.5_024(3040PCoIP_8.5_024)</p> <p>必要事項入力の上、[保存して公開]を押します。</p>
<p>8</p>	<p>アラート</p> <p>保留中のすべての設定変更が保存および公開されて、グループページにリダイレクトされます。</p> <p>ビジュアルエクスペリエンス や セキュリティ設定 といった一部の設定を変更すると、シンクライアントが再起動することがあります。</p> <p>ポリシーにさらに変更を加える必要がある場合は、いいえ をクリックします。1つのポリシータブから別のポリシータブに切り替えても保留中の変更は失われません。</p> <p>変更がすべて完了したら はい をクリックします。</p> <p><input type="button" value="いいえ"/> <input type="button" value="はい"/></p>	<p>アラート ポップアップが表示されます。 [はい]を押します。</p>

<p>9</p>		<p>端末上のイベントログを確認します。</p> <p>「一部の設定を WMS から受信済み（設定を適用するには再起動が必要です!）」というログが記録されます。</p>
<p>10</p>		<p>端末を再起動すると、自動的に更新用のファームウェアファイルが WMS よりダウンロードされます。OS が自動的に再起動し、ファームウェアの適用処理が完了します。</p>

3.2 ThinOS 詳細設定

WMS の ThinOS ポリシー設定では、ThinOS の INI パラメータを GUI フォームより直感的に設定いただけるようになっております。一方、WMS の GUI からは全ての INI パラメータの設定フォームが提供されているわけではありません。WMS ではこのようなパラメータを配信するための機能を用意しています。

本書では、Wyse 3040 端末のデスクトップを VMware モードへ変更する設定を行います。

手順	画面	説明
<p>1</p>		<p>WMS へサインインし、[グループ&設定]タブを選択します。</p> <p>左ペインよりポリシーを定義するデバイスグループを選択します。</p> <p>右ペイン、「ポリシーの編集」をクリックし、OS 種別を選択します。</p> <p>本書では ThinOS を選択します。</p>

<p>2</p>	<p>ThinOS 設定モードの選択</p> <p>ThinOS を設定する際、頻繁に使用されるパラメータの設定にウィザードを使用しますか、または詳細設定を使用しますか？</p> <p><input type="checkbox"/> この質問を表示せずに、ThinOS Advanced Configuration ページを開きます。このダイアログを再度表示するには、右上のログインメニューにある、ユーザープリファレンス > ポリシーで ThinOS ウィザードモードを使用するかどうかを確認するボックスをオンにします。</p> <p style="text-align: center;"> <input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="ウィザード"/> <input type="button" value="詳細設定"/> </p>	<p>ThinOS 設定モードの選択</p> <p>ポップアップが表示されます。[詳細設定]を押します。</p>
<p>3</p>		<p>左ペインよりデバイス詳細設定 -> 詳細設定を選択し、右ペインに表示された [この項目を設定する]を押します。</p>
<p>4</p>		<p>詳細設定</p> <p>必要事項を入力して[保存して公開]を押します。</p> <p>本書では下記を入力します。</p> <p>ライン 1 : SysMode=VMware</p>
<p>5</p>		<p>端末は再起動され、新しいデスクトップモードで起動してきます。</p>

4 ThinOS パッケージの配信

ThinOS にはファームウェアに加えて特定機能を追加するためのパッケージがあります。WMS ではこの ThinOS パッケージを配信することができます。WMS にて ThinOS パッケージを配信する場合、「アプリケーションポリシー」を作成し、「ジョブ」としてスケジュールすることで配信することができます。アプリケーションポリシーでは、WMS レポジトリに保存されている「どのアプリケーションパッケージ」を、「どの対象」に展開するかを定義します。アプリケーションポリシーには「アプリポリシー」と「詳細なアプリポリシー」があります。「アプリポリシー」は単一のアプリケーションを指定し、対象に展開する場合に使用します。「詳細なアプリポリシー」では単一または複数のアプリケーションが指定可能であり、またアプリケーション導入の事前/事後に実行するバッチなども指定することが出来るためより細かな配信設定が可能であり、また複数アプリケーションを展開する際の端末のリポート回数を少なくすることができます。（Windows シンククライアントを想定）


WMS レポジトリのフォルダ構造は下記のとおりです。

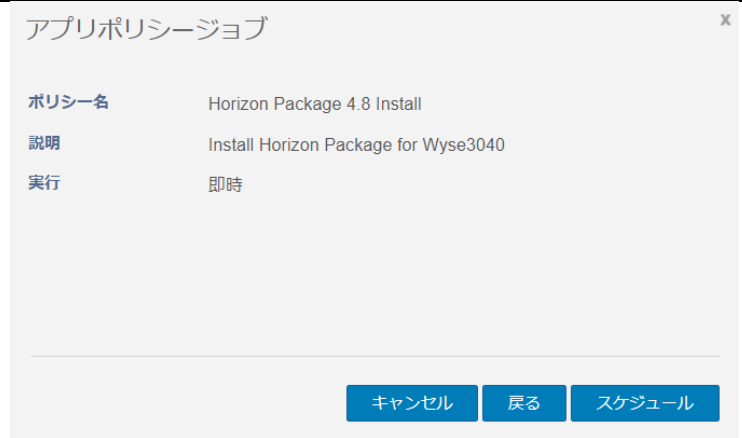

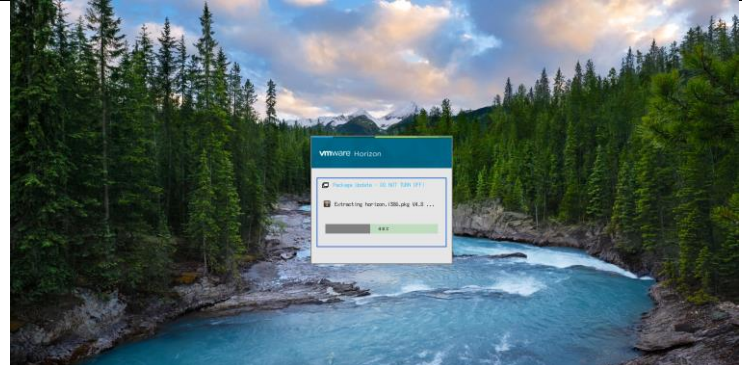
	フォルダ説明
レポジトリルート	
imagePull	OSイメージ Pull処理にて使用されるファイル用フォルダ（システム用）
iotGatewayApps	シンククライアント運用においては未使用
osImages	OS イメージ用フォルダ
valid	Dellサイトより取得した圧縮ファイルは zippedフォルダへ保存すると、自動的に解凍の上、valid フォルダに保存されます。Zippedフォルダに保存されたファイルは自動削除されます
zipped	
rspPackages	RSP形式パッケージ用フォルダ
valid	Dell サイトより取得した圧縮形式のrspパッケージファイルは、zippedへフォルダへ保存します。保存されたファイルは自動的に解凍の上、validフォルダに保存されます。Zippedフォルダに保存されたファイルは自動削除されます。 カスタムrspパッケージはvalidフォルダへ保存します。カスタムrspパッケージの利用についてはDell担当者にお問い合わせください。
zipped	
softwareTcApps	ソフトウェアシンククライアント用アプリケーションフォルダ
thinClientApps	シンククライアント用アプリケーションフォルダ

本書では Wyse ThinOS 端末に、最新の Horizon パッケージを展開する手順を紹介します。

手順	画面	手順
1	 <p>The screenshot shows the Dell eSupport website. The search bar contains 'Wyse 3040 Thin Clientのサポート'. Below the search bar, there are several filters and a search button. The search results show a link to 'Wyse 3040 Thin Clientのサポート'.</p>	<p>Dell eSupport サイトより、最新の VMware Horizon Client のモジュールをダウンロードします。</p> <p>ダウンロードし .pkg ファイルを以下にコピーします。</p> <p><WMS レポジトリ>%thinClientApp%</p>
2	 <p>The screenshot shows the WMS Portal Management - File Repository page. The 'Active Directory (AD)' tab is selected. A table lists file repositories with columns for Name/URL, Sync Status, Version, File Size, and other details. The 'Files Sync' button is visible.</p>	<p>WMS にサインインし、[ポータル管理]タブを選択します。</p> <p>コンソール設定->ファイルレポジトリを選択し、該当するレポジトリにチェックを入れ、[ファイルの同期]ボタンをクリックします。</p>
3	 <p>The screenshot shows the WMS Application and Data - Thin Client Application Inventory page. A table lists applications with columns for Name, Version, Repository Name, Size, and other details. The 'Thin Client' tab is selected.</p>	<p>WMS にて[アプリとデータ]タブを選択します。</p> <p>アプリインベントリ->Thin Client を選択すると、WMS インベントリー内に保存されているファイルが表示されます。</p> <p>アプリポリシー -> Thin Client をクリックします。</p>
4	 <p>The screenshot shows the WMS Application and Data - Thin Client Application Policy page. The 'Add Policy' button is visible. The page shows a list of policies for the 'Thin Client' group.</p>	<p>[ポリシーの追加] を押します</p>

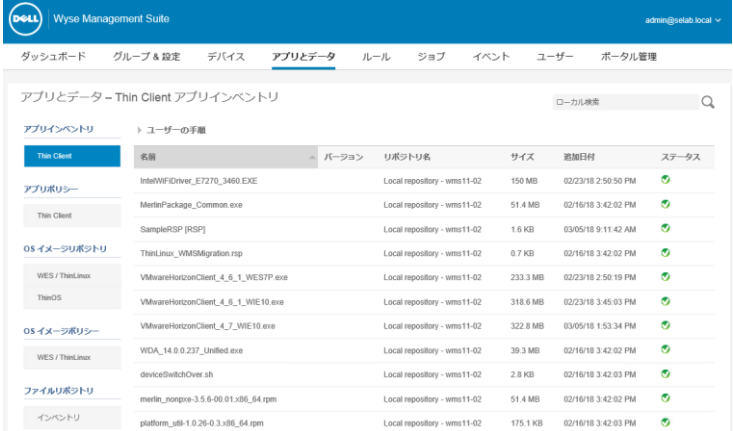


5	<p>標準アプリポリシーの追加</p> <p>ポリシー名 <input type="text" value="Horizon Package 4.8 Install"/></p> <p>グループ <input type="text" value="testWTOS"/></p> <p>タスク <input type="text" value="アプリケーションのインストール"/></p> <p>OS タイプ <input type="text" value="ThinOS"/></p> <p>アプリケーション <input type="text" value="horizon.i386.pkg (Local repository)"/></p> <p>OS サブタイプフィルタ <input type="text" value="BLP (Wyse ThinOS PCoIP)"/></p> <p>プラットフォームフィルタ <input type="text" value="Wyse 3040 thin client with ThinOS"/></p> <p>インストーラパラメータ <input type="text"/></p> <p>ポリシーを自動的に適用 <input type="text" value="チェックイン時にポリシーをデバイスに適用"/></p> <p>最大試行回数 <input type="text" value="再試行なし"/></p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="保存"/></p>	<p>標準アプリポリシーの追加</p> <p>必要事項を入力し、[保存] ボタンを押します。</p> <p>本書では下記を設定します。</p> <p>ポリシー名: Horizon Package 4.8</p> <p>グループ: <対象グループ></p> <p>タスク: アプリケーションのインストール</p> <p>OS タイプ:</p> <p>アプリケーション:</p> <p>horizon.i386.pkg</p> <p>OS サブフィルタ:</p> <p>BLP(Wyse ThinOS PCoIP)</p> <p>プラットフォームフィルタ:</p> <p>Wyse 3040 thin client with ThinOS</p> <p>ポリシーを自動的に適用:</p> <p>チェックイン時にポリシーをデバイスに適用</p> <p>最大試行回数:</p> <p>再試行なし</p>
6	<p>アラート</p> <p>警告: チェックイン時にポリシーをデバイスに適用 がオンになっていると、保存後はポリシーを編集できなくなります。保存するには はい を、分からない場合には キャンセル を押します。</p> <p><input type="button" value="キャンセル"/> <input type="button" value="はい"/></p>	<p>アラート</p> <p>[はい]を押します。</p>
7	<p>アラート</p> <p>ポリシーは保存されました。</p> <p>アプリポリシーを適用するためのジョブをスケジュールしますか?</p> <p><input type="button" value="後で"/> <input type="button" value="はい"/></p>	<p>アラート</p> <p>すぐにジョブをスケジュールするか問われます。ここでは[後で]を押します。</p>





<p>8</p>		<p>アプリポリシー -> Thin Client にて先ほど作成したアプリケーションポリシーが表示されていることが確認できます。</p>
<p>9</p>		<p>WMS 上部の[ジョブ]タブを選択します。 [アプリポリシーのスケジュール] ボタンを押します。</p>
<p>10</p>		<p>アプリポリシージョブ 必要事項を入力し、[プレビュー] ボタンを押します。 本書では下記入力を行います。 ポリシー : Horizon Package 4.8 Install 説明: Install Horizon Packagefor Wyse3040 実行 : 即時</p>

<p>11</p>		<p>アプリポリシージョブ [スケジュール]ボタンを押します。</p>
<p>12</p>		<p>ジョブ 登録したジョブがリストされていることが確認できます。</p>
<p>13</p>		<p>シンクライアント端末ではパッケージの適用が自動的に開始されます。</p>

5 証明書の配布

WMS ではパッケージ以外にも、証明書の配布が可能です。本書では証明書の配布設定の例をご紹介します。

手順	画面	手順
1	 <p>The screenshot shows the 'Apps and Data' section in the WMS interface. The 'Application Inventory' tab is active, displaying a table of applications. The table has columns for Name, Version, Repository Name, Size, Added Date, and Status. Applications listed include IntelWiFiOver_E7270_3460 EXE, MerlinPackage_Common.exe, SampleRSP [RSP], ThinLinux_WMSMigration.rsp, VMwareHorizonClient_4.6_1_WESTP.exe, VMwareHorizonClient_4.6_1_WIE10.exe, VMwareHorizonClient_4.7_WIE10.exe, WDA_14.0.0.237_Unified.exe, deviceSwitchOver.sh, merlin_nopxe-3.5.6-00.01.x86_64.rpm, and platform_u6i-1.0.26-0.3.x86_64.rpm.</p>	<p>WMS にサインインし、[アプリとデータ]タブを選択します。</p> <p>ファイルレポジトリ->インベントリ を選択します。</p>
2	 <p>The screenshot shows the 'Files' tab in the 'Application Inventory' section. It displays a table for file repositories. The table has columns for Type, Name, Version, Description, Upload Date, Platform, and Priority. One entry is visible: '証明書' (Certificate) with Name 'RootCA.cer', Version 'N/A', Description 'Root CA of ADDS', Upload Date '03/05/18', Platform 'N/A', and Priority '-'. There are buttons for 'File Addition', 'File Migration', and 'File Removal'.</p>	<p>ファイルの追加をクリックします</p>
3	 <p>The screenshot shows the 'File Addition' dialog box. It contains the following fields and options:</p> <ul style="list-style-type: none"> アップロードするファイルを選択します。 ファイル名: Input field with 'RootCA2.crt' and a '参照...' (Reference) button. タイプ: Dropdown menu with '証明書' (Certificate) selected. 説明: Input field with 'Root CA'. <input type="checkbox"/> 既存のファイルを上書きする <small>メモ: ここではファイルがリポジトリに追加されますが、グループ/デバイスへの割り当ては行われません。適切な設定ページ (Thin Client など) から割り当てを実行してください。</small> Buttons: 'キャンセル' (Cancel) and 'アップロード' (Upload). 	<p>ファイルの追加</p> <p>参照 ボタンを押して、展開する証明書ファイルを選択します。</p> <p>説明欄に証明書の説明を記載して アップロード ボタンを押します。</p>

<p>4</p>	 <p>The screenshot shows the 'App and Data' section of the Dell Wyse Management Suite. It features a table with columns for 'This Client', 'Type', 'Name', 'Version', 'Description', 'Upload Date', 'Platform', and 'Action'. Two certificates are listed: 'RootCA.cer' and 'RootCA2.crt', both with a version of 'N/A' and an upload date of '03/05/18'.</p>	<p>証明書が登録されたことが確認できます。</p>
<p>5</p>	 <p>The screenshot shows the 'Groups & Settings' section. A group named '192.168.20.0' is selected, and the 'Policy' dropdown is set to 'Policy of the group'. A 'ThinOS' policy is highlighted, and a '3' is shown next to it, indicating the number of devices in the group.</p>	<p>WMS の[グループ&設定]タブを選択し、証明書を展開するグループを選んで、右ペインよりポリシーの編集 -> ThinOS を選択します。</p>
<p>6</p>	 <p>The screenshot shows the 'Security' settings page for ThinOS. The 'Security' section is active, and a '設定: セキュリティ' (Settings: Security) dialog box is displayed. The dialog contains instructions and a 'この項目を設定する' (Set this item) button.</p>	<p>左ペインより「セキュリティ」を選択し、[この項目を設定する]を押します。 右ペインの「証明書をインストール」にチェックを入れます。 証明書の候補が現れますので、展開する証明書にチェックを入れます。 最後に、右上の「保存して公開」をクリックします。</p>
<p>7</p>	 <p>The screenshot shows the 'General Settings' page. It includes sections for 'Gkey Reset', 'Traces', 'Certificate Removal', 'Certificate Self-Installation', and 'Certificates'. The 'Certificate Self-Installation' checkbox is checked. Under 'Certificates', 'RootCA.cer' is listed with a checked box next to it.</p>	<p>右ペインの「一般設定」の欄に必要事項を記載します。本書では下記を入力します。</p> <p>証明書のインストール: チェックを入れます。 証明書: <インベントリに追加した証明書> にチェックを入れます。</p> <p>画面上部より[保存して公開]を押します。 ※デフォルトで VNC 設定欄の[VNC を有効にする]にチェックが入っています。このままにする場合、[VNC パスワード]に任意の文字列を入力する必要があります。または、[VNC を有効にする]のチェックを外します。</p>

6 トラブルシューティング

WMS ではシンクライアントデバイスでの問題発生時のトラブルシューティングを支援する機能を提供しています。

- システム情報：デバイスの各種パラメータの確認（ホスト名、シリアル、BIOS 情報等）
- インストールされているアプリ：インストールされているアプリケーションパッケージ一覧
- デバイスのログ：OS ログの遠隔ダウンロード

デバイスログの取得方法

手順	画面	説明
1		<p>WMS にサインインし、デバイスタブを選択します。</p> <p>デバイス名をクリックします。</p>
2		<p>中央ペインの デバイスのログ タブを選択します</p>

<p>3</p>		<p>[ログファイルの要求] ボタンを押します</p>
<p>4</p>		<p>アラート ポップアップが表示されます。 [コマンドの送信]を押します。</p>
<p>5</p>		<p>[ログファイルの要求] 下に表示される “ここをクリック” のハイパーリンクをクリックします。</p>

以上

A 参考情報

- シンククライアント Wyse まとめ Wiki:

<https://www.dell.com/support/article/jp/ja/jpdhs1/sln313475/%E3%82%B7%E3%83%B3%E3%82%AF%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%83%88-wyse-%E3%81%BE%E3%81%A8%E3%82%81-wiki?lang=ja>

- Dell サポートページ Wyse Management Suite のサポート:

<https://www.dell.com/support/home/jp/ja/jpdhs1/product-support/product/wyse-wms/research>